

東和作戦会議 速報 №13

一般社団法人東和作戦会議広報

令和元年 12月11日 発行

一般社団法人東和作戦会議ホームページ

<http://touwa-noutabi.blogspot.jp/>



講師は、花巻市総合文化財センターの文化財専門官 中村良幸さん

中村さんは、この春安俵高館と押蕪館の調査を行い、縄張図を完成しました。今回はこの調査をもとに高館跡を歩きながら、館の仕組み、特徴などについて解説していただきました。参加者は、中世の山城の役割と当時の武士や農民の暮らしに想いを馳せました。

二つの山城は、戦など有事の際に駆け上り籠城などの備えを行い、攻撃をかわすための手段として整備されました。

東和おもしろ学ツアー「安俵小原氏の歴史講座」実施

令和元年 12月2日(月) 9:00~12:30

小原氏の城と歴史にスポットを当てて行われた、この歴史講座には会員 30 名が参加。地元安俵や花巻市内の他、東和町との交流が続いている神奈川県川崎市東和OB会の皆さんが、安俵城の成り立ちや、山城の役割、主家利賀氏との関わりなどについて学びました。



安俵城跡

南北 700m 東西 200m 複数の郭を堀で区画した連郭式の平城。一部土塁も残っている安俵城跡。城の中心と思われる郭の最北には館上神社が建っています。居城を守るように背後に詰城として館が築かれていました。



竹中浄水場付近から本丸跡を目指します。

山城は、自然の地形を活用し、山の斜面を切り崩し平地にした郭や、尾根からの攻撃を断ち切るための堀切、削った土を盛った土塁などが造られました。山城整備のために伐採された木は、柵や、逆茂木（伐った木をそのままにし、敵が登りにくいようにする）や先のとがった木を組む乱杭などにも使用しました。



からめてくち やぐら 搦手口、櫓跡、本丸跡、大手口など、順に見学すること1時間あまり 戦国武士の過酷さを体験しました。



郭は敵が攻め込んできたときに上から攻撃するために造った平場。



中世の城はほとんどが山城で、山城の堀切は鋭角に削られた空堀です。石垣が組まれた城は近世の平城が多く、平城の堀には水堀もありました。



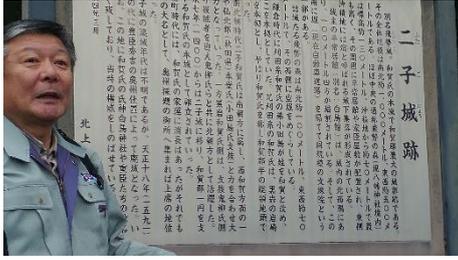
安俵高館行軍終了～！



これだけの規模の館を造るためには、大勢の人足と、資金が必要だったと思われます。このことから、小原氏は当時絶大な勢力を誇っていたことが伺えます。しかし、この館が実際に戦場に使用された記録はなく、勢力を見せつける、威嚇の意図があったと考えられます。この地域にはこうした館がいくつもあります。



二子城跡



小原氏の主家和賀氏の居城二子城は、別名飛勢城と言います。和賀氏の本城で和賀郡最大の城郭群です。最大規模は南北1,000m東西500m。主郭のほぼ中央の飛勢の森(現八幡神社境内)は、標高130m。平地から70mの比高があり、主郭の西側丘陵地に重臣たちの屋敷跡があります。



飛勢の森展望台北側の眺望

更木館跡

小原氏が安俵城を築城する前に居住していたとされる更木館跡。「和賀稗貫郷村誌」に「安俵館、毒沢丸とて和賀家中士の宅地多し」とあります。



安俵高館本丸跡にて記念写真